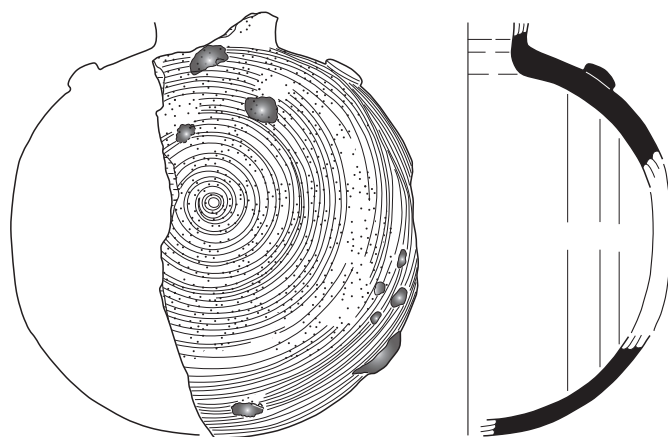


上 の 下 遺 跡

(第4地点 第2次)

—建売住宅建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



2022

水戸市教育委員会

うえ の した い せき
上 の 下 遺 跡

(第4地点 第2次)

—建売住宅建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2022

水戸市教育委員会

ごあいさつ

水戸市の東部に位置する常澄地区には、本書で報告する上の下遺跡をはじめ、東前原遺跡、小原遺跡、梶内遺跡、那賀郡家の別院とも考えられている大串遺跡など古墳時代終末期から奈良・平安時代にかけての遺跡が数多く残されており、古くから連綿と人々の生活が営まれるとともに、律令体制下においては重要な地域であったことが判明しつつあります。

一方、常澄地区の一画をなす東前町周辺では、近年の宅地造成工事に伴い、周辺に位置する遺跡の様相が大きく変わりつつあり、本市教育委員会では、東前町一帯の地中に現在も眠っている遺跡の実像を後世へと伝えるため、文化財保護法並びに関係法令に基づき遺跡の保護保存に努めているところです。

さて、このたび実施した発掘調査は、上の下遺跡で初めての本発掘調査であり、建売住宅造成の工事に伴う記録保存を目的とした発掘調査であります。発掘調査では古墳時代の竪穴建物跡や中世の方形土坑が検出されるとともに、本市では4例目となる須恵器の提瓶が出土するなど、多くの遺構や遺物が検出され、大変貴重な成果となりました。

ここに刊行の運びとなりました本書を契機として、かけがえのない貴重な文化財に対する愛着を深めていただくとともに、学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたりまして多大なる御理解と御協力を賜りました関係各位に、心から感謝を申し上げます。

令和4年3月

水戸市教育委員会
教育長 志田 晴美

例 言

1. 本書は、建売住宅建設事業に伴う上の下遺跡（第4地点 第2次）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は水戸市教育委員会の指導のもと、株式会社日本窯業史研究所が実施した。
3. 調査概要及び調査体制は下記の通りである。

所在地 水戸市東前一丁目58番1

調査面積 112m²

調査期間 令和3年9月1日～9月17日

調査指導 新垣 清貴（水戸市教育委員会）

調査担当 三輪 孝幸（㈱日本窯業史研究所）

調査・整理参加者 石崎靖也 宇留野広大 宇留野初男 寺門信幸 安井忠一 菅間智子

4. 本書は、新垣・三輪が分担執筆し、新垣の助言・指導に基づいて三輪が編集した。
5. 出土遺物及び図面・写真などの記録類は、報告書刊行後一括して水戸市埋蔵文化財センターで保管する。
6. 調査においては下記の方々からご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表するものである。



（敬称略・順不同）

稲田健一 土生朗治 賀来孝代

茨城県教育庁文化課 ひたちなか市埋蔵文化財センター 有限会社毛野考古学研究所 株式会社アーネストワン 株式会社タケシ石材

凡 例

1. 本書に記している座標値は、世界測地系に基づく。挿図のうち、平面図の方位記号は座標北を、土層断面図の水準高の数値は海拔標高をそれぞれ示す（単位：m）。
2. 土層及び遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修2002年版）に準拠する。
3. 遺構平面図及び土層断面図の縮尺は1/60を基本とし、各図にスケールを明示した。
4. 遺物実測図の縮尺は1/3を基本とし、小破片は1/2、土玉は原寸で掲載し、各図にスケールを明示した。
5. 遺物写真の縮尺は実測図と同じである。
6. 遺物番号は実測図、観察表、写真図版とも共通である。
7. 挿図中のスクリーンは以下に示すとおりである。

 カマド構築材  焼土

目 次

ごあいさつ

例言・凡例・目次

第1章	調査に至る経緯と調査の経過	1
1	調査に至る経緯	1
2	調査の方法と経過	2
3	基本層序	2
第2章	遺跡の位置と環境	3
1	地理的環境	3
2	歴史的環境	3
3	上の下遺跡における既往の調査	5
第3章	調査の成果	7
1	竪穴建物跡	7
2	土坑	7
3	溝	15
第4章	総括	17

写真図版
報告書抄録

挿 図

第1図	基本層序
第2図	上の下遺跡の範囲と周辺遺跡
第3図	上の下遺跡の既往の調査地点
第4図	遺構配置図
第5図	第1号竪穴建物跡
第6図	第1号竪穴建物跡カマド
第7図	第1号竪穴建物跡出土遺物（1）
第8図	第1号竪穴建物跡出土遺物（2）
第9図	第1号竪穴建物跡出土遺物（3）
第10図	土坑（1）
第11図	土坑（2）
第12図	第1号溝

表目次

第1表	上の下遺跡と周辺遺跡一覧
第2表	上の下遺跡における既往の調査歴
第3表	第1号竪穴建物跡出土遺物属性一覧
第4表	遺物集計表

図版目次

- 図版 1 A. 中世土坑・近世耕作痕掘削状況全景（垂直） B. 古墳時代竪穴建物跡掘削状況全景（垂直）
- 図版 2 A. 古墳時代竪穴建物跡掘削状況全景（北東から） B. 遺構検出状況（北東から） C. 中世土坑・近世耕作痕掘削状況全景（北東から） D. 古墳時代竪穴建物跡掘削状況全景（北東から） E. 基本層序（南東から）
- 図版 3 A. SI01完掘状況（北西から） B. SI01土層断面（南から） C. SI01新カマド（南東から） D. SI01カマド掘方（南東から） E. SI01新カマド土層断面（東から） F. SI01旧カマド土層断面（南から） G. SI01土師器甕出土状況（南から） H. SI01土師器甕出土状況（南から）
- 図版 4 A. SI01須恵器提瓶出土状況（西から） B. SI01須恵器提瓶出土状況（西から） C. SI01土玉出土状況（北から） D. 土坑群完掘状況（西から） E. 土坑群完掘状況（東から） F. SK01完掘状況（南西から） G. SK01土層断面（南から） H. SK02完掘状況（西から）
- 図版 5 A. SK02土層断面（西から） B. SK03完掘状況（東から） C. SK03土層断面（南から） D. SK04完掘状況（南西から） E. SK05完掘状況（北東から） F. SK06完掘状況（北東から） G. SD01完掘状況（南東から） H. SD01土層断面（南東から）
- 図版 6 第1号竪穴建物跡出土遺物（1）
- 図版 7 第1号竪穴建物跡出土遺物（2）

第1章 調査に至る経緯と調査の経過

1 調査に至る経緯

令和3年4月3日付けで、建売住宅建設に伴い、株式会社アーネストワン 代表取締役 松林重行から水戸市教育委員会（以下「市教委」という。）教育長あて、「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」（教埋第20号）の照会、「開発に伴う試掘調査の実施について（依頼）」（教埋第21号）、「埋蔵文化財発掘の届出について」（教埋第22号）の提出があった。

照会地である水戸市東前一丁目58番1～4、59番地内は、周知の埋蔵文化財包蔵地「上の下遺跡」の範囲内に該当していることから、令和3年5月20日から5月22日にかけて市教委は試掘調査を実施した（上の下遺跡第4地点第1次調査）。試掘調査の結果では古代の竪穴建物跡2軒、土坑5基、ピット12基、性格不明遺構1基が確認された。

令和3年5月28日付け（教埋第21号）により市教委は事業者あて試掘調査結果の回答を提出した。同時に遺跡の発掘調査を必要とする場合には、原因者の全面的な協力をお願いする旨、回答を行った。

これを受けて、市教委は事業者側と埋蔵文化財の保護を目的として設計変更等の協議を図った。その結果、申請建物部分については、保護層の確保が行われることで、埋蔵文化財の保護が可能となるものの、進入路部分が切土予定であり、設計変更が困難であるとの結論に達した。

その後、原因者と株式会社タケシ石材 代表取締役 武士 昌史（以下土地所有者）との間で発掘調査費用の負担について協議が行われ、調査費用については土地所有者側で負担することとして、進入路部分のみを対象として本発掘調査を行うことで合意が図られた。

このような状況を踏まえ、市教委は令和3年6月18日付け教埋第22号にて、茨城県教育委員会（以下「県教委」という。）教育長あて、法第93条第1項に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」を進達した。これを受けて、県教委教育長から令和3年6月22日付け文第948号「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」にて工事着手前に発掘調査を実施すること、調査の結果、重要な遺構等が確認された場合にはその保存等について別途協議をする旨、勧告があった。

これを受けて土地所有者は、令和3年7月27日に株式会社日本窯業史研究所（以下「調査機関」という。）と発掘調査業務委託契約を締結するとともに、調査機関及び市教委と発掘調査実施に係る協定を締結した。調査機関は法92条第1項の規定により、令和3年8月11日付け「埋蔵文化財発掘調査の届出について」（教埋第428号）を県教委教育長あて提出し、その後県教委教育長から調査機関へ令和3年8月20日付け文第1579号「埋蔵文化財の発掘調査について（通知）」にて、適切に発掘調査を実施するよう指示があった。

以上のような経過のもと、当該調査を上の下遺跡第4地点第2次調査として、令和3年9月1日から令和3年9月17日にかけて発掘調査を実施することとなった。

（新垣）

2 調査の方法と経過

調査区の座標は公共座標を基準に設定した。基準点は調査区の東方約60mの道路上にある4級基準点を利用し、座標と水準高をトータルステーションによって移動した。調査区の測量に当たっては、調査区の周囲にあるプラスチック杭に座標値・水準高を設定し行った。

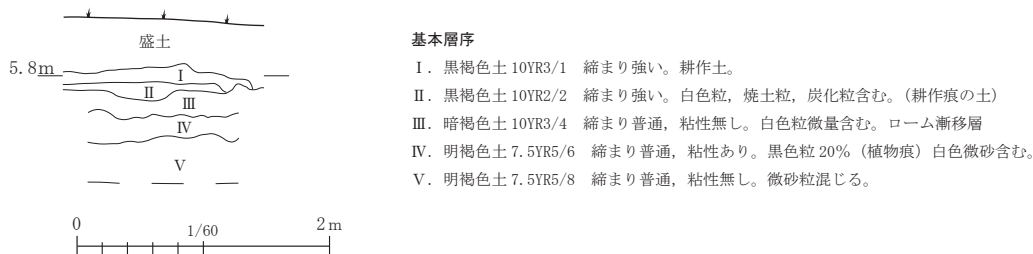
調査に当たっては、重機を用いて表土の掘削を遺構確認面まで行った。遺構の掘削は人力によって行い、平面図はレイアウトナビゲーターを使用して測量点の座標を読み取り、手作業により作図した。竪穴建物跡・土坑・溝・基本層序などの土層断面図、カマド平面図はすべて手作業によった。出土遺物は遺構別、層位別に分別して取り上げた。竪穴建物跡の下層出土の遺物のうち、器形の判読できるものについては出土状況の写真撮影、位置・水準高を記録し取り上げた。写真撮影は全景写真及び遺構の完掘状況、土層断面をデジタルカメラで撮影し、遺構確認状況、中世土坑・近世耕作痕掘削状況全景、古墳時代竪穴建物跡掘削状況全景はドローンにより垂直及び俯瞰を撮影した。

発掘調査は令和3年9月1日から9月17日まで行った。1日は表土掘削作業、2日遺構確認作業を行う。3・4・6日に確認状況図の作成を行う。6～9日に土坑掘削を行う。7・8・10日に土坑の土層断面・平面図の作成を行う。10日に中世土坑・近世耕作痕掘削状況全景を撮影。11～15日に第1号竪穴建物跡の掘削、14日に土層断面図の作成、15日に全体清掃、写真撮影、第1号竪穴建物跡の平面図の作成を行う。15・16日カマドの解体、土層断面・平面図の作成を行う。16日に市教委の終了確認を受ける。

整理作業は調査終了後から行った。遺物は洗浄、注記、分類、実測作業、写真撮影を行う。遺構図及び遺物実測図のトレース及び挿図作成はイラストレーターで行う。その後、遺構・遺物の検討、原稿執筆、編集作業を行う。

3 基本層序（第1図）

調査区は耕作土の上位に造成盛土があり、その上が現地表面である。耕作土は上位が水田、下位が畑地であったと考えられ、下位の畑地の耕作痕が遺構確認面に認められた。遺構確認面はローム漸移層である。



第1図 基本層序

第2章 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

上の下遺跡の位置する水戸市は、茨城県の北部に位置し、平成の合併により東西23.7km、南北18.2km、面積217.32km²の規模となった。水戸市は茨城県の県都として県の北部の交通の要衝として栄え、首都圏への連絡網としてのJR常磐線が通り、水戸線、水郡線、鹿島臨海鉄道大洗鹿島線の起点ともなっている。また、常磐自動車道が南北に、北関東自動車道が東西に通っている。上の下遺跡はこの水戸市の東部、東前町に所在している。

水戸市の地形は北西から南東に流れる那珂川とその支流である桜川や涸沼川によって形成された沖積低地と南西部の東茨城台地（洪積層台地、標高20～30m）、北西部は鶏足山塊から延びる丘陵地、那珂川左岸の那珂台地からなっている。地質は台地上で鶏足層を基盤とし、泥岩によって形成されている第三紀層の水戸層がその上に堆積している。さらにその上に粘土・砂によって形成されている第四紀層の見和層、礫からなる上市層、灰白色粘土の上層粘土層、そして、関東ローム層の順で水平に堆積する。また、低地では沖積谷を河川堆積物である砂礫が埋め、場所によっては有機質の黒色泥や草炭類似のものの堆積が見られる。

上の下遺跡は、東茨城台地の裾部、那珂川の右岸の沖積低地に立地している。調査地の標高は5mを測る。

2 歴史的環境（第2図、第1表）

水戸市内を流れる那珂川流域及び涸沼川流域には各時代にわたって人々が居住し、数多くの遺跡が所在することで知られている。

旧石器時代の遺跡はナイフ形石器文化の後半に位置づけられる石器が出土している大六天古墳があり、そのほか赤塚遺跡、十万原遺跡が挙げられる。

縄文時代には、各期にわたり多くの遺跡が見られ、特に沖積低地に沿った台地縁辺部に集中する。早期では柳崎遺跡、馬場尻遺跡、十万原遺跡、森戸遺跡があり、前期では谷田貝塚、柳崎遺跡、大串貝塚がある。中期では、吉田貝塚、塙東遺跡、砂川遺跡、向山遺跡、後期になると谷田貝塚、砂川遺跡、六地藏寺遺跡、東前原遺跡、晩期ではアラヤ遺跡がある。

弥生時代になると、縄文時代と同じように丘陵沿いの台地上や沖積地に沿った台地縁辺部に遺跡が多く所在し、中～後期の向原遺跡、後期のお下屋敷遺跡、大塚新地遺跡、松原遺跡、遠西遺跡、後期の大道端遺跡、栗崎遺跡、大六天古墳などがある。

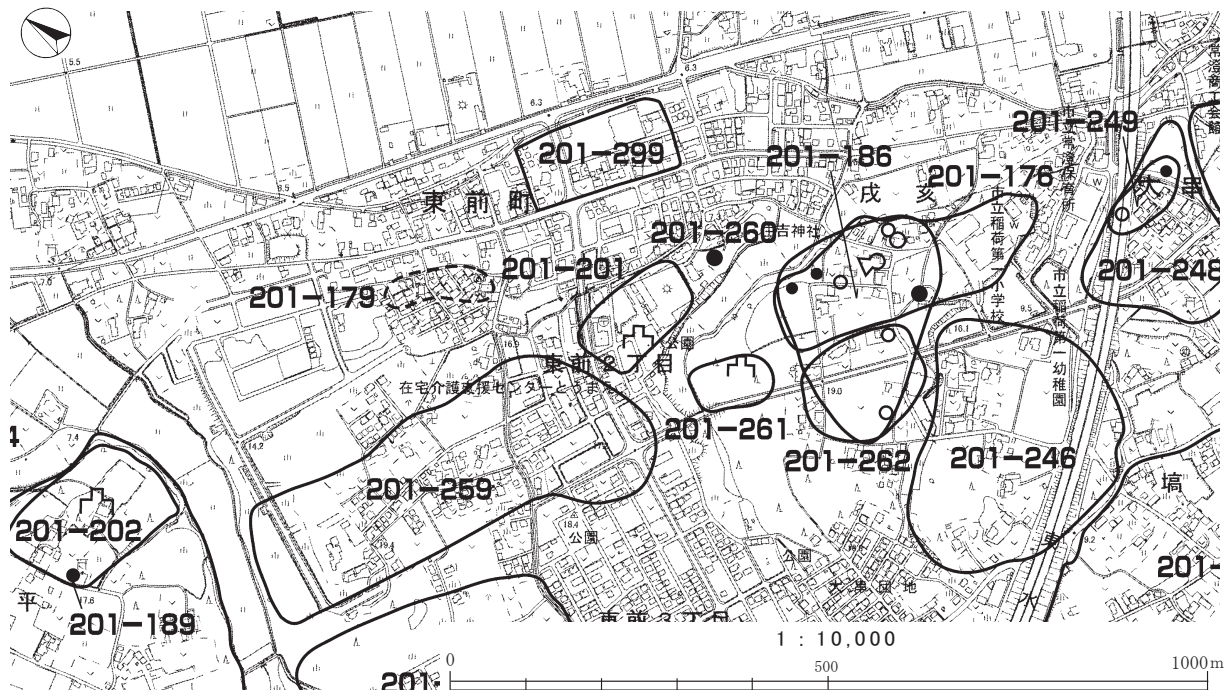
古墳時代になると、随所に大小の集落が営まれ、多くの古墳が築造されるようになる。古墳は、那珂川右岸と涸沼川左岸の台地縁辺部に小形の円墳を中心に群集している。六反田古墳群、栗崎古墳群、金山塚古墳群、大串古墳群、高原古墳群、涸沼台古墳群、小山古墳群、森戸古墳群、下入野古墳群等があげられる。集落としては、後期に属する遺構が確認された梶内遺跡、向山遺跡があり、このほか前期の竪穴建物跡2軒と中期の竪穴建物跡1軒が確認された北屋敷遺跡等があげられる。

奈良・平安時代になると当地は常陸国那賀郡に属していた。市内渡里町に所在する台渡

里官衙遺跡群は、数度の調査によってその全貌が明らかになりつつある。このほかに、大串遺跡第7地点の調査では断面V字状の大型の溝によって区画された内部に、整然と並ぶ総地業の礎石建物跡3棟が確認されていることにより、正倉別院との指摘がなされている。集落としては、古墳時代後期より続く、東前原遺跡、梶内遺跡、沢幡遺跡等が確認されている。

中世になると当地は吉田郡内の石川（水戸市元吉田町一帯）に居を構えていた常陸平氏の一族、大掾氏の別れである吉田氏によって治められていた。当該期の遺跡としては、椿山館、和平館、大串原館があげられる。

以上、上の下遺跡周辺には、縄文時代から中世に至る遺跡が数多く残されているが、いずれも東茨城台地上に立地しており、今回調査を行った上の下遺跡の様に沖積低地に立地する遺跡は少ないと言える。



第2図 上の下遺跡の範囲と周辺遺跡

第1表 上の下遺跡と周辺遺跡一覧

遺跡番号	遺跡名	所在地	種類	遺跡番号	遺跡名	所在地	種類
201-178	向山遺跡	大串町向山	集落跡	201-248	北屋敷遺跡	大串町北屋敷	集落跡
201-179	東前遺跡	東前町道漢坂	集落跡	201-249	北屋敷古墳群	大串町北屋敷	古墳群
201-183	小原遺跡	東前町原	集落跡	201-259	東前原遺跡	東前町原	集落跡
201-186	金山塚古墳群	大串町原	古墳群	201-260	住吉神社古墳	東前町金山	古墳
201-189	愛宕神社古墳	栗崎町	古墳	201-261	大串原館跡	大串町原	城館跡
201-201	椿山館跡	東前町金山	城館跡	201-262	大串原遺跡	大串町原	集落跡
201-202	和平館跡	栗崎町	城館跡	201-299	上の下遺跡	東前町上の下	包蔵地
201-246	梶内遺跡	大串町梶内	集落跡				

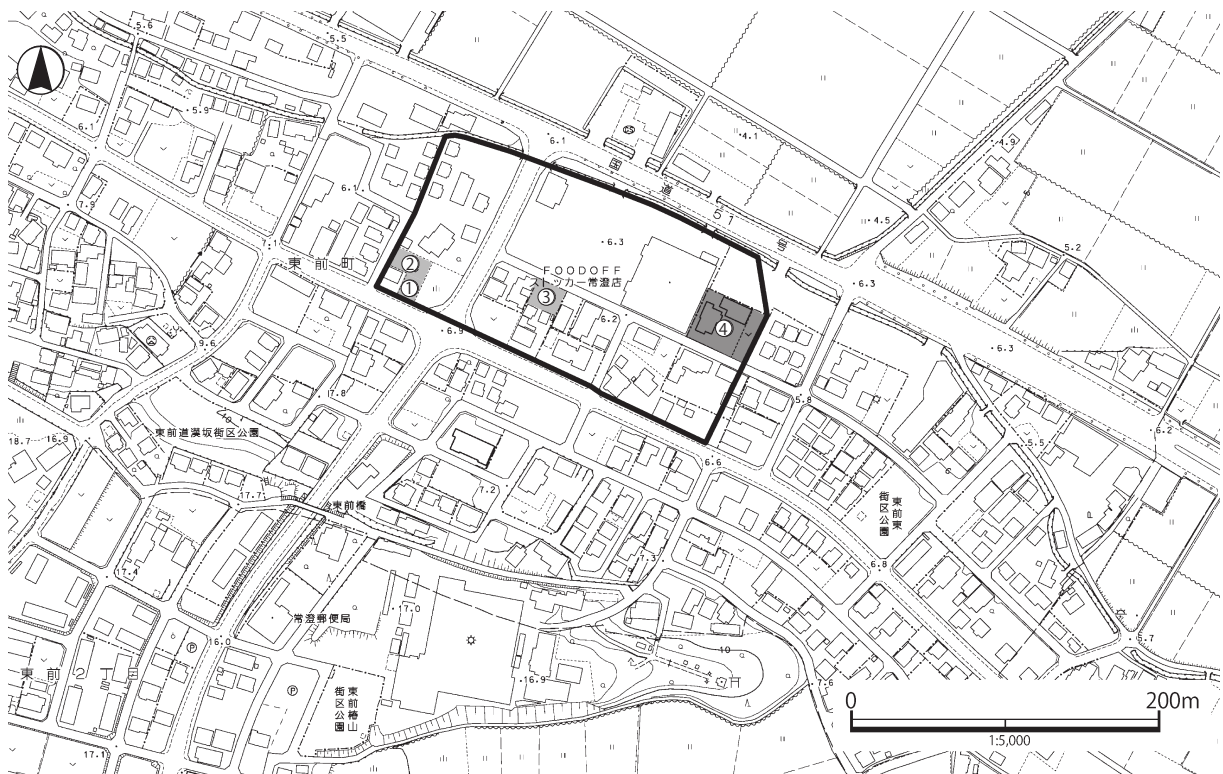
3 上の下遺跡における既往の調査（第3図，第2表）

上の下遺跡は今般調査地点を含む4地点で調査が行われている。平成24年分布調査によって、初めて新規登録され、比較的調査の蓄積が浅い遺跡である。

埋蔵文化財が確認された地点も今般調査地点のみであり、これまで第1から第3地点まで個人住宅建築や建売住宅建設などで試掘確認調査を実施しているが、遺構や遺物ともに確認されていない。したがって、現時点において遺跡の性格を理解する手段としては今般地点の試掘結果ならびに、本発掘調査結果のみとなる。

第1・2地点は今般調査地点より東側で遺跡範囲の縁辺に位置する。いずれも個人住宅建築に伴う調査である。第3地点は今般地点と第1・2地点の概ね中間の箇所位置し、建売住宅建設に伴う調査である。

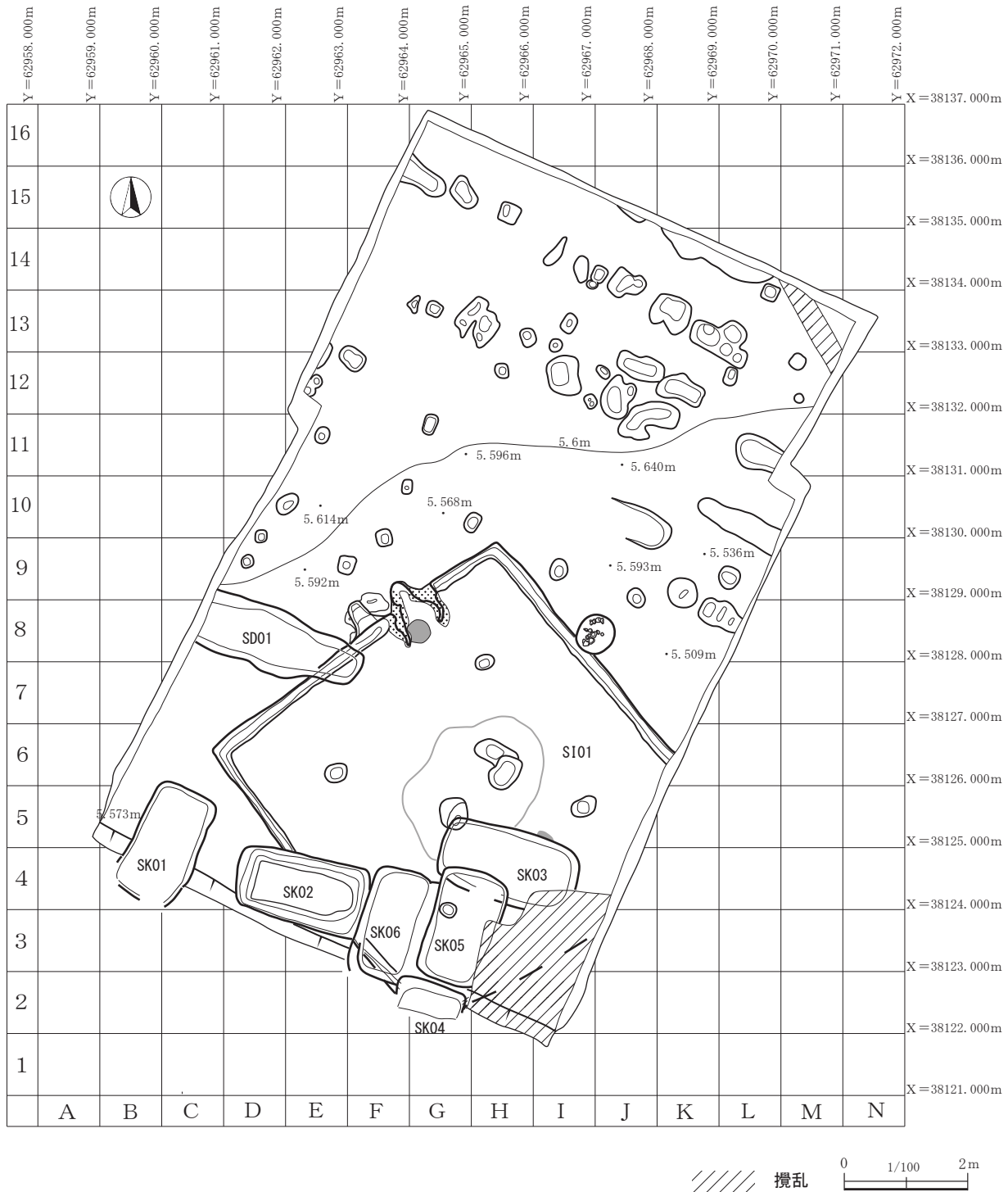
今般地点の試掘確認調査においては、古代の竪穴建物跡2軒のほか、中世の方形土坑5基、ピット12基、性格不明遺構1基、近世の井戸1基が確認された。土地利用としては、古代から中世、近世における土地利用が伺え、遺構の土地利用痕跡がもっとも多いのが中世である。試掘調査では中世の内耳土鍋片、土師質土器皿が1点程度であった。周辺の中世遺構としては、今般調査地点より直近の場所における中世の遺跡として常陸大掾氏一族の立原氏の館跡とされる椿山館跡が本遺跡の南側に位置する。調査例などもなく詳らかではないが、近年の東前地内の調査において多く確認されている粘土貼り土坑、地下式坑など15世紀から16世紀後半までを中心とした遺構群については、立原氏の支配に起因する周辺での土地利用の関連も視野に、周辺での調査成果と併せ慎重な検討を要するものである。（新垣）



第3図 上の下遺跡の既往の調査地点

第2表 上の下遺跡における既往の調査歴

地点数	回数	調査箇所	調査年月日	調査種別	調査原因	遺構	遺物	備考
1	1	東前町804-6	平成25年7月24日	試	個人住宅	-	-	
2	1	東前一丁目444-1	平成27年10月21日	試	個人住宅	-	-	
3	1	東前一丁目88	平成27年11月25日	試	建売住宅	-	-	
4	1	東前一丁目58-1 ～4・59	令和3年6月22日・25日	試	建売住宅	○	○	
	2	東前一丁目58-1 ～4・59	令和3年9月1日～9月17日	本	建売住宅	○	○	本報告書



第4図 遺構配置図

第3章 調査の成果

1 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第5～9図，第3表，図版3・4・6・7）

調査区の南側に位置し，第2～6号土坑，第1号溝に切られている。平面形は方形を呈し，規模は一辺5.8m，確認面からの深さ50cmである。主軸方向はN-40°-Wを示す。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。周溝はカマドを除き全周しているものと考えられる。幅14～25cm，深さ2～4cmである。床面はローム層を掘り込んで作られ，ほぼ平坦で中央を除き硬く締まっている。中央部は硬化面が認められず，ローム面が荒れていた。柱穴は7基が確認され，P1～4が主柱穴である。規模はP1が径32×23cm，深さ30cm，P2が径44×28cm，深さ41cm，P3が径27×23cm，深さ36cm，P4が径38×30cm，深さ43cmである。中央で確認したP5～7は平面形が不整形で，掘り込みも浅く柱穴とは考えづらい。カマドは北壁中央に設けられ，新旧2基が確認された。旧カマドは竪穴建物跡のセンターに設けられ，壁をU字型に幅50cm，奥行47cmを掘り込んでいる。作り替えに際して，黄灰色粘土を含んだ黒褐色土等によって埋め戻されている。新カマドは旧カマドの東側に隣接して作られている。壁をU字型に幅65cm，奥行35cmを掘り込んでいる。袖は明褐色土（砂質ローム）によって作られている。火床は床面とほぼ同じ高さで，中央よりやや西側に焼土面が認められた。覆土は10層に分層したが，大まかに上層と下層に分けられる。上層は黒褐色土を主体とし焼土粒，炭化粒を全体的に含み，焼土塊も認められる。下層は黒褐色土，暗褐色土を主体とし，ローム粒を多く含んでいる。上層は焼土等が堆積していることから人為的な行為が行われたと考えられる。

遺物は土師器坏・甕，須恵器坏・提瓶，土玉が出土した。土師器甕（15）は試掘調査で出土したもので，新カマドの燃烧部からの出土である。土師器甕（14）は新カマドの前面，床面より若干浮いた位置から出土している。そのほか，土師器甕（13）が北壁際の西側，須恵器提瓶（16）は東壁側中央のいずれも床面から若干浮いた位置から出土している。また，土玉5個，（1個は欠損し，未実測）（17～20）はP1の東側，編み物石（22）は東壁側南よりの床面上から出土し，支脚（23）は新カマドの東側から出土した。

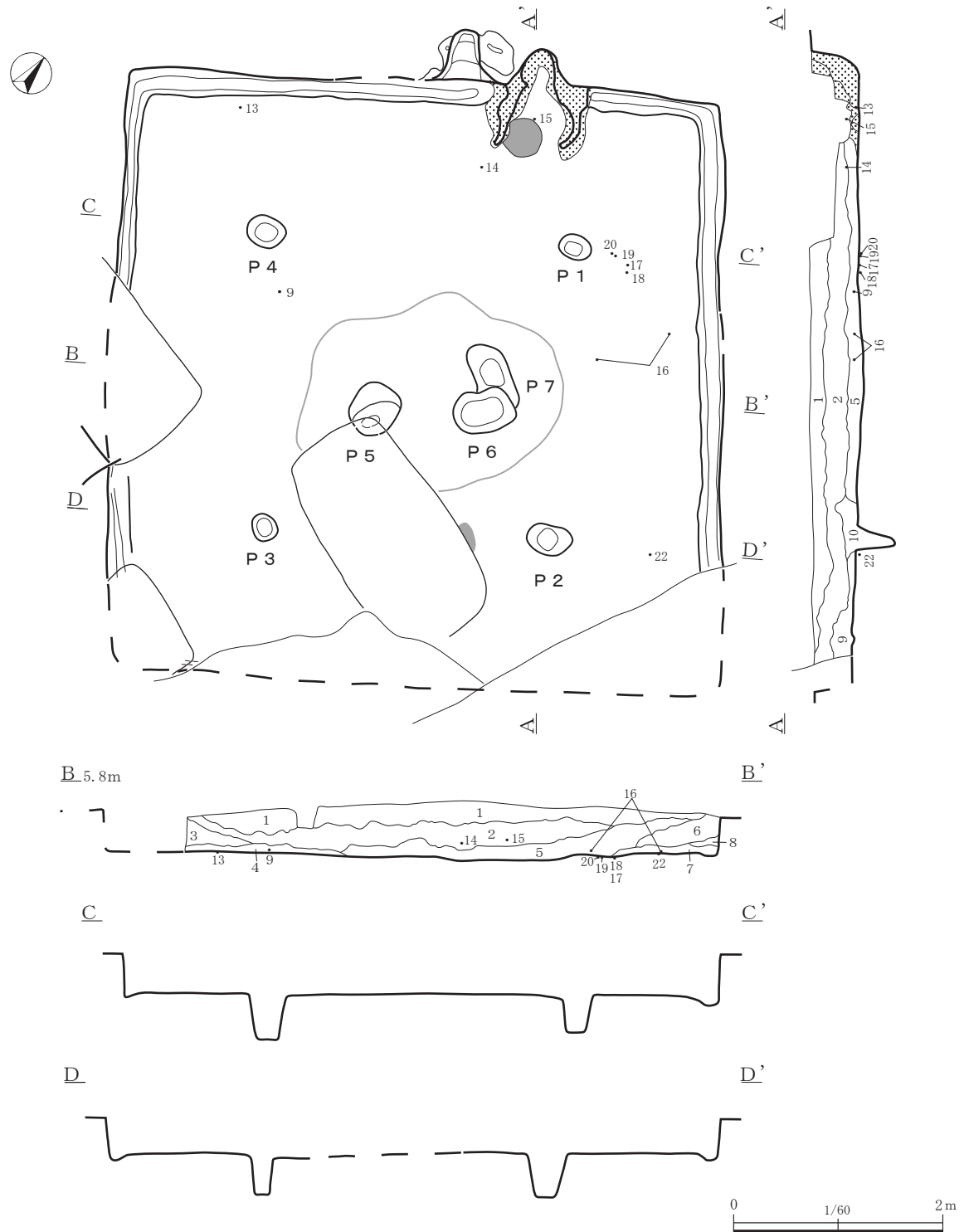
2 土坑

第1号土坑（第10図，図版4）

調査区の南西隅に位置し，南側を切られている。平面形は長方形と推定され，規模は長軸約2m，短軸1.1m，確認面からの深さ50cmである。主軸方向はN-24°-Eを示す。壁はほぼ垂直に立ち上がり，底面はローム層を掘り込みほぼ平坦である。覆土は3層に分層したが，黒色土の人為的埋戻しである。遺物は土師器坏・高台付坏・甕，須恵器坏・高台付坏・甕が出土し，いずれも細片で流れ込みと推測される。

第2号土坑（第10図，図版4・5）

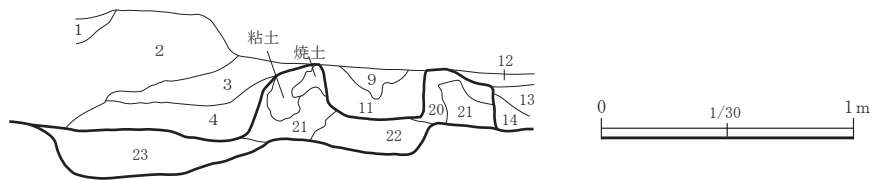
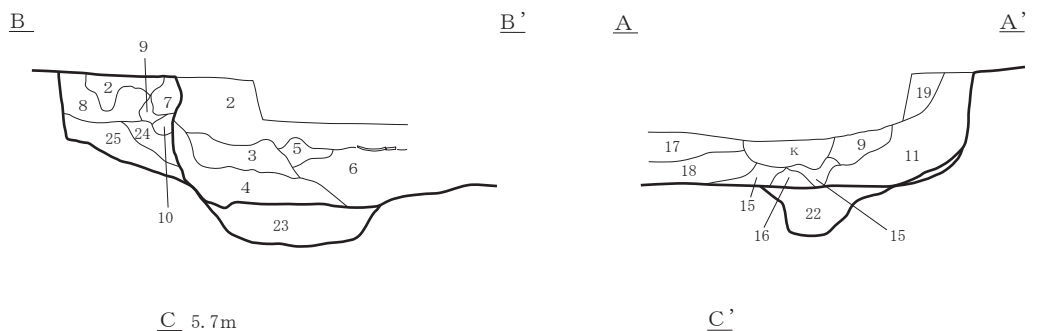
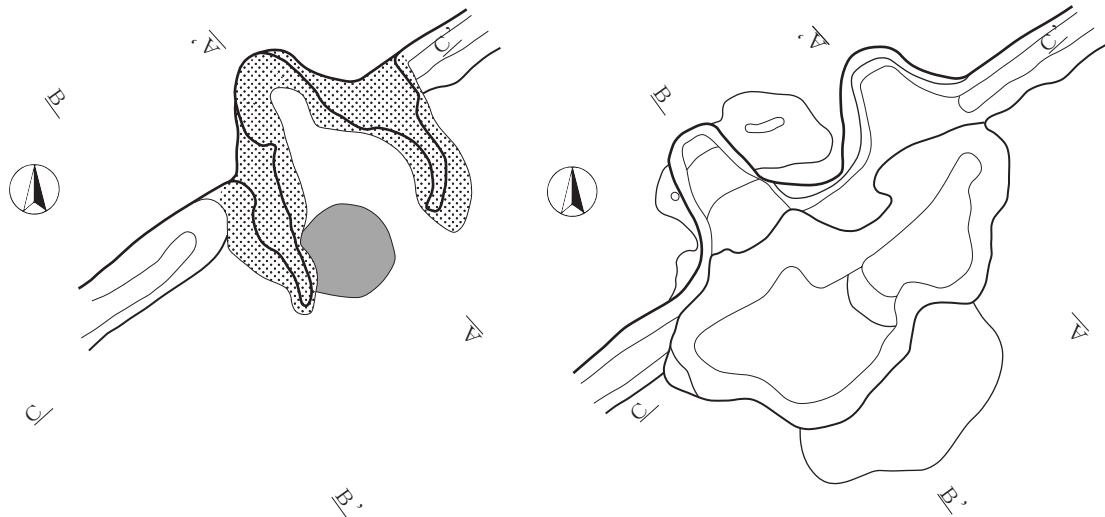
調査区の南に位置し，第1号竪穴建物跡を切り，第7号土坑に切られている。平面形は



S101

1. 黒褐色土 10YR2/3 締まり普通, 粘性無し。1~2mmローム粒 20%, 3~5mmローム粒, 焼土粒, 炭化粒 5% 含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 締まり普通, 粘性無し。1~2mmローム粒 20%, 3~5mmローム粒, 焼土粒, 炭化粒 含む。
3. 黒褐色土 10YR2/3 締まり普通, 粘性無し。1~2mmローム粒 30%, 炭化粒 含む。
4. 黒褐色土 10YR2/2 締まり強い。1~2mmローム粒 20%, 焼土塊, 黒色土塊, 酸化土 含む。
5. 黒褐色土 7.5YR3/2 締まり普通, 粘性無し。1~2mmローム粒 40%, 5~8mmローム塊 3% 含む。
6. 暗褐色土 10YR3/4 締まり普通, 粘性無し。1~2mmローム粒 50%, 3~5mmローム塊 5%, 5~8mm黒色土塊 10% 含む。
7. 暗褐色土 10YR3/4 締まり普通, 粘性無し。1~2mmローム粒 50%, 5~8mm黄褐色土 混じる。
8. 暗褐色土 10YR3/4 締まり普通, 粘性無し。30~40mm黒色土 混じる。
9. 暗褐色土 10YR3/4 締まり普通, 粘性無し。ローム粒 10%, 黒褐色土 含む。
10. 黒褐色土 10YR2/2 締まり普通, 粘性無し。1~2mmローム粒 10%, 黒色土粒 含む。

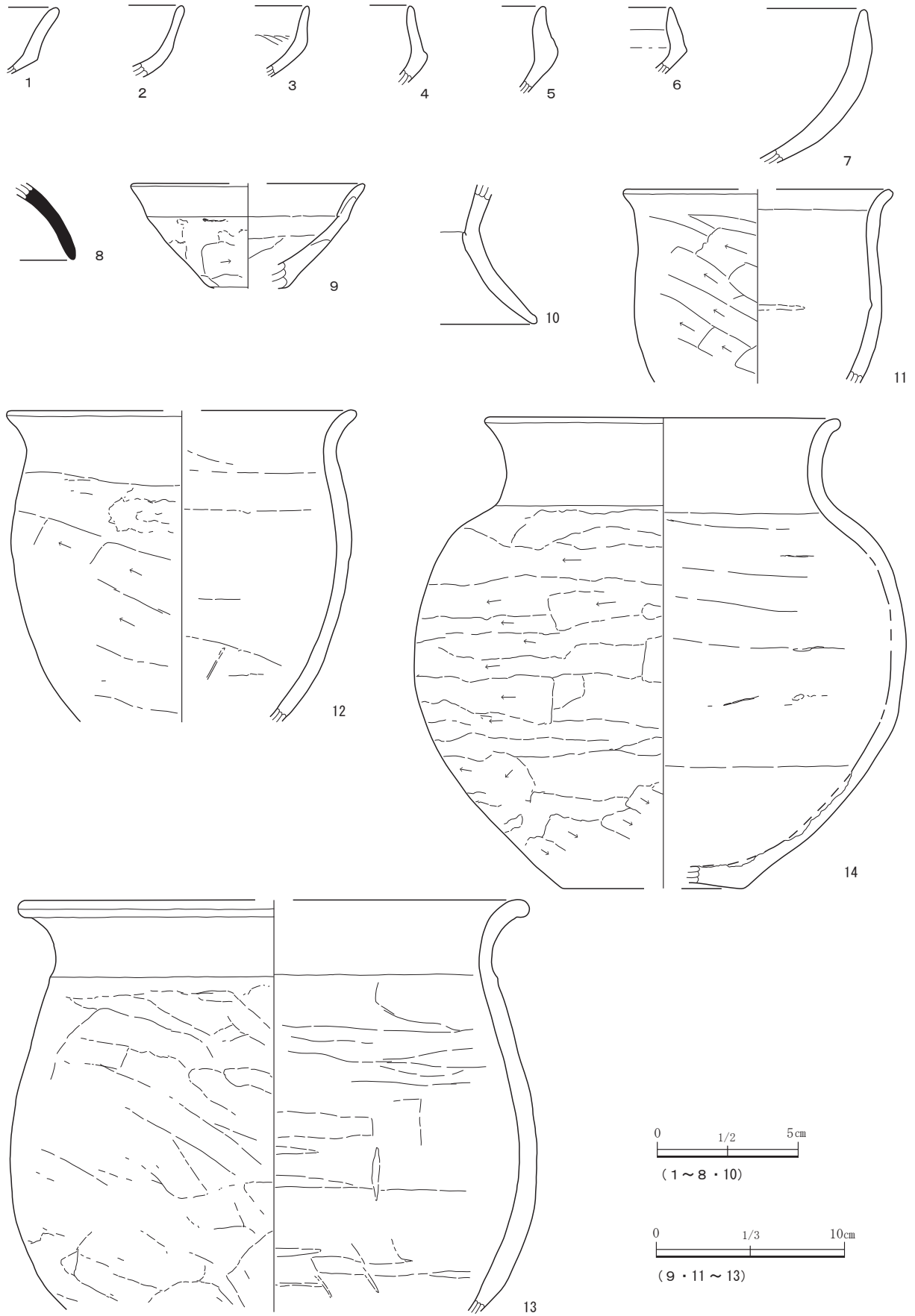
第5図 第1号竪穴建物跡



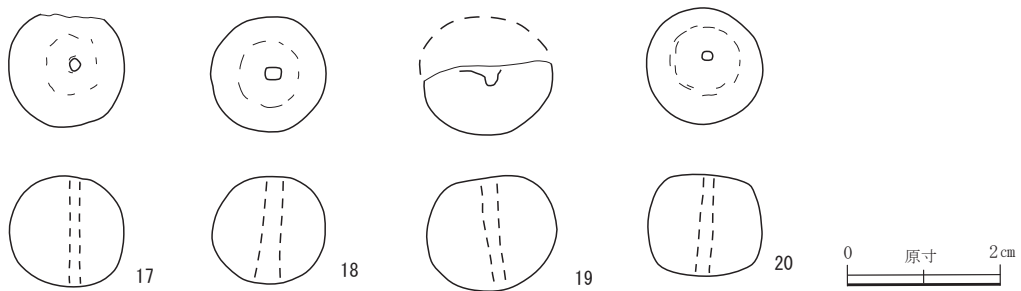
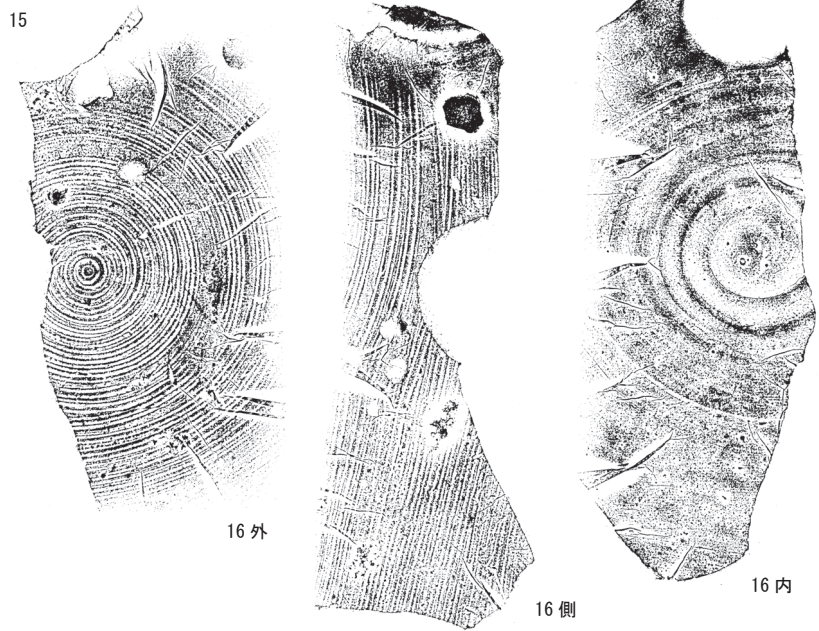
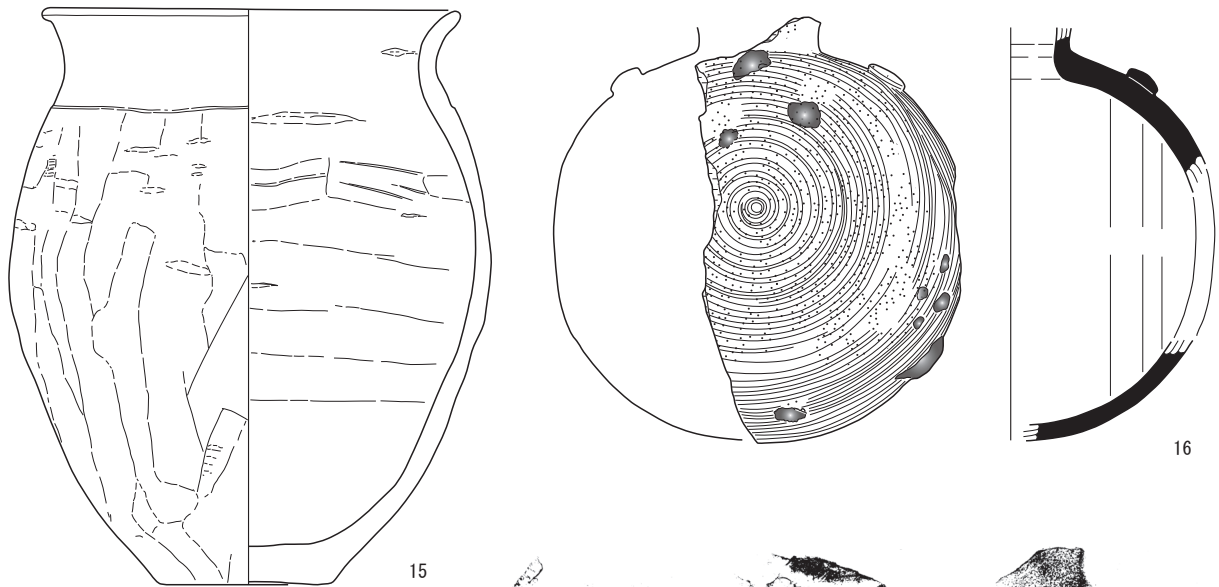
S101 カマド

1. 黒褐色土 10YR2/3 縮まり普通。1mmローム粒，焼土粒，炭化粒5%含む。
2. 黒褐色土 7.5YR3/2 縮まり普通。1~2mmローム粒30%，2~5mm焼土粒10%，2~3mm黒色土粒10%，白色粘土粒混じる。
3. 黒褐色土 7.5YR2/2 縮まり普通。1~2mmローム粒5%，10~20mm黒色土塊5%，3~10mm焼土塊含む。
4. 黒褐色土 7.5YR3/2 縮まり普通，やや粘性。白色粘土50%，5~20mm焼土塊，黒色土塊5%含む。
5. 黒褐色土 10YR2/3 縮まり普通。白色粘土30%，黒色土粒，焼土粒含む。
6. 黒褐色土 10YR2/3 縮まり普通。1~2mmローム粒20%，焼土粒含む。
7. 極暗褐色土 7.5YR2/3 縮まり弱い。黄灰色粘土塊，3~5mm焼土粒含む。
8. 褐色土 7.5YR4/3 縮まり普通。黄灰色粘土粒40%，3~10mm焼土塊30%，黒色土塊含む。
9. 明黄褐色土 10YR6/6 粘土
10. 黒褐色土 7.5YR3/2 縮まり弱い。黒色土粒含む。
11. 黒褐色土 7.5YR2/2 縮まり弱い。3~5mm明黄褐色粘土塊30%，焼土塊10%含む。
12. 極暗褐色土 7.5YR2/3 縮まり弱い。3~5mm焼土塊3%，黒色土塊含む。
13. 黒褐色土 10YR2/3 縮まり普通。
14. 黒褐色土 10YR2/3 縮まり普通。3~5mmローム粒30%，焼土粒含む。
15. 暗褐色土 7.5YR3/3 縮まり普通。焼土30%，灰褐色粘質土，10mmローム塊含む。
16. 褐灰色土 7.5YR4/1 縮まり普通。灰層。
17. 暗褐色土 10YR3/3 縮まり普通。2~3mm焼土粒20%，2~10mmローム粒5%，黒褐色土粒含む。
18. 黒褐色土 10YR2/2 縮まり普通。2~3mmローム粒10%，黒色土塊，焼土塊5%含む。
19. 暗褐色土 10YR3/3 縮まり普通，粘性無し。明黄褐色粘土40%，黒色土塊含む。
20. 明褐色土 7.5YR5/8 砂質ローム
21. 暗褐色土 10YR3/4 明褐色土塊30%，炭化粒含む。
22. 黒褐色土 7.5YR3/2 10~20mmローム塊30%，黒色土含む。
23. 黒褐色土 7.5YR3/2 縮まり弱い。3~5mmローム塊30%，焼土粒，3cmローム塊，黒色土塊20%含む。
24. 明褐色土 7.5YR5/8 焼土塊含む。
25. 暗褐色土 7.5YR3/3 縮まり弱い。5~10mm焼土塊，炭化粒含む。

第6図 第1号竪穴建物跡カマド



第7图 第1号竖穴建物跡出土遺物(1)

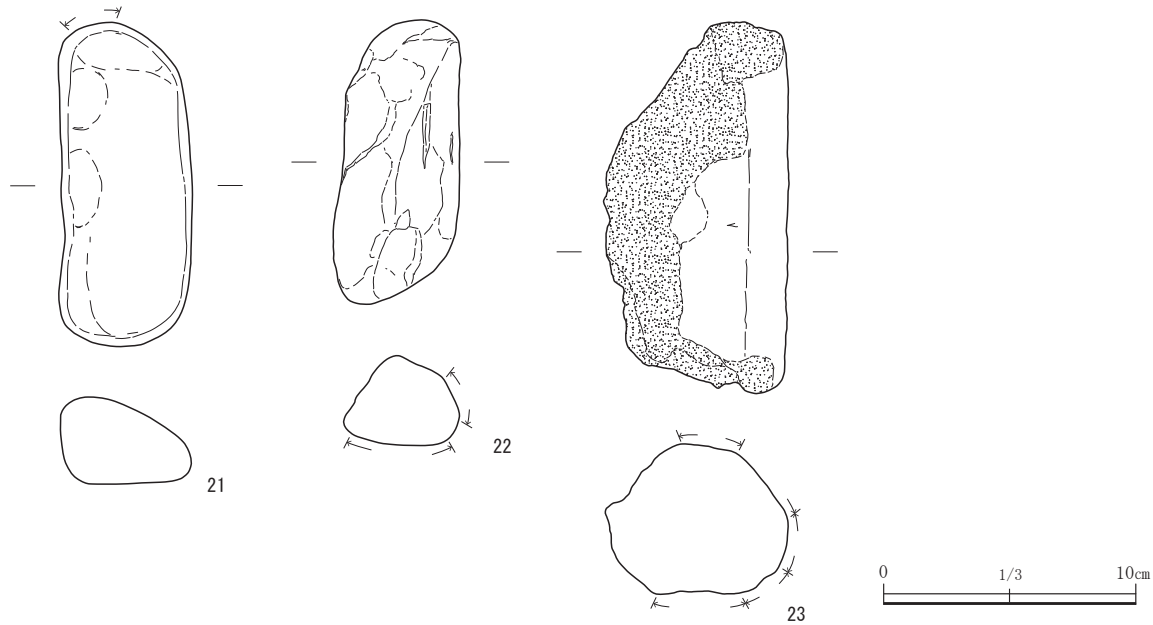


第8图 第1号竖穴建物跡出土遺物(2)

第3表 第1号竖穴建物跡出土遺物属性一覧

() 推定値, [] 現存値

遺物番号	出土地点	種別・器種	残存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考	
1	4区下層	土師器・坏	口縁部・ 体部片	—	—	—	口縁部横ナデ, 体部外面斜めヘラ削り。	1~4mm礫	良好	橙7.5YR6/6		
2	4区下層	土師器・坏	口縁部・ 体部片	—	—	—	口縁部横ナデ, 体部外面斜めヘラ削り。	微砂粒, 1~2mm礫	良好	にぶい橙 7.5YR7/4, 一部 明赤褐2.5YR5/6		
3	4区上層	土師器・坏	口縁部・ 体部片	—	—	—	口縁部横ナデ, 体部外面斜めヘラ削り。体 部外面横のミガキ。	石英, 微砂粒	良好	明赤褐5YR5/6		
4	4区下層	土師器・坏	口縁部・ 体部片	—	—	—	口縁部横ナデ, 体部外面ヘラ削り。	雲母, 細砂粒	良好	にぶい橙5YR6/4		
5	4区下層	土師器・坏	口縁部・ 体部片	—	—	—	口縁部横ナデ, 体部外面横のヘラ削り, 内 面ミガキ。	細砂粒, 2~3mm礫	普通	にぶい褐 7.5YR5/4 灰褐7.5YR4/2		
6	4区下層	土師器・坏	口縁部・ 体部片	—	—	—	口縁部横ナデ, 体部外面横のヘラ削り, 内 面放射状のミガキ。	細砂粒	良好	浅黄橙7.5YR8/4 内面橙7.5YR7/6		
7	3区上層	土師器・坏	口縁部・ 体部片	—	—	—	口縁部横ナデ, 体部外面横のヘラ削り後ナ デ, 底部斜めヘラ削り, 内面ナデ。	長石, 粗砂粒	普通	にぶい橙 7.5YR7/4, 橙5Y6/6, 内面にぶい橙 7.5YR7/3		
8	4区上層	須恵器・蓋	口縁部・ 体部片	—	—	—	ロクロ整形, 甲部外面削り。	微砂粒	普通	黄灰2.5Y6/1 内面淡黄2.5Y8/3		
9	4区下層	土師器・坏	口縁部・ 体部片	(12.3)	5.6	(4.2)	口縁部横ナデ, 体部外面ヘラナデ, 内面ナ デ。	石英, 微砂粒	普通	にぶい橙 7.5YR6/4 黒褐10YR3/1		
10	3区上層	土師器・ 高坏	脚部破 片	—	—	—	脚部下部横ナデ, 上部縦のヘラ削り。	石英, 微砂粒	普通	橙5YR6/6 にぶい橙 7.5YR7/4		
11	4区下層	土師器・甕	口縁部・ 体部片	(14.0)	—	—	口縁部横ナデ, 体部外面斜めヘラ削り, 内面横のヘラナデ。	石英, 粗砂粒, 酸化 鉄	普通	にぶい褐 7.5YR5/3 黒10YR2/1		
12	4区上層	土師器・甕	口縁部・ 体部片	(18.3)	—	—	口縁部横ナデ, 体部外面斜めヘラ削り, 一 部ミガキ, 内面ナデ, 下部ヘラナデ。	石英, 粗砂粒	普通	灰黄褐10YR4/2~ 黒10YR2/1		
13	4区下層	土師器・甕	口縁部・ 体部片	(26.7)	—	—	口縁部横ナデ, 体部外面斜めヘラ削り, 内面横のヘラナデ。	石英, 細砂粒, 4~ 10mm小石混じる	普通	にぶい赤褐 5YR5/4 にぶい橙 7.5YR7/4 褐灰7.5YR4/1		
14	4区下層	土師器・甕	90%	18.6	25.3	9.7	口縁部横ナデ, 体部外面上・中位横の削り, 下位斜め削り, 内面横のヘラナデ, 内面に 粘土紐痕が認められる。	石英, 雲母	普通	黒褐7.5YR3/2 2.5YR5/4		
15	カマド	土師器・甕	100%	16.3	23.1	6.8	口縁部横ナデ, 体部外面縦のヘラ削り, 内 面横のヘラナデ, 内面に粘土紐痕, 下位に 横方向の線状の傷が認められる。	石英, 雲母, 酸化鉄	普通, 一部二 次被熱	橙5YR6/6 灰褐5YR4/2		
16	1区下層	須恵器・ 提瓶	40%	—	—	—	ロクロ整形, 黄灰色の自然降灰, 窯体付着, 円形の剝離痕。	白色粒, 海綿骨針, 石英, 粗	良好	黒褐2.5YR3/1		
遺物番号	出土地点	種別・器種	残存	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	重さ (g)	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
17	1区床直	土玉	90%	14.8	13.55	1.8	2.9	表面なめらかで, やや光沢がある。	石英	普通	黒10YR2/1	
18	1区床直	土玉	100%	14.9	13.3	2	3	表面なめらかで, やや光沢がある。	微砂粒	普通	黒10YR2/1	
19	1区床直	土玉	50%	—	—	—	[2.1]	表面なめらかで, やや光沢がある。	微砂粒	弱い	黒10YR2/1	
20	1区床直	土玉	100%	14.9	12.8	1.5	2.9	表面なめらかで, やや光沢がある。	微砂粒	普通	黒10YR2/1	
遺物番号	出土地点	種別・器種	残存	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	特徴	材質	備考		
21	4区下層	編み物石	100%	12.9	5.3	3.5	375	俵状を呈し, 断面三角形である。全体的に磨かれ, 中央に窪み が認められる。	砂岩			
22	2区床直	編み物石	100%	11.3	5.1	3.6	266	棒状を呈し, 断面三角形である。側面が研磨されている。	安山岩			
23	カマド右脇	支脚	40%	—	—	—	—	土製で側面が面取りされており, 5面が遺存している。	すき入り粘土			



第9図 第1号竖穴建物跡出土遺物(3)

長方形と推定され、規模は長軸約2.2m、短軸1.2m、確認面からの深さ40cmである。主軸方向はN-77°-Wを示す。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はローム層を掘り込みほぼ平坦であるが、壁際に溝状の掘り込みが巡り、東側では不明瞭である。覆土は7層に分層したが、黒褐色土を主体とする人為的埋戻しである。遺物は土師器甕、須恵器坏・壺・甕が出土し、いずれも細片で流れ込みと推測される。

第3号土坑(第10図, 図版5)

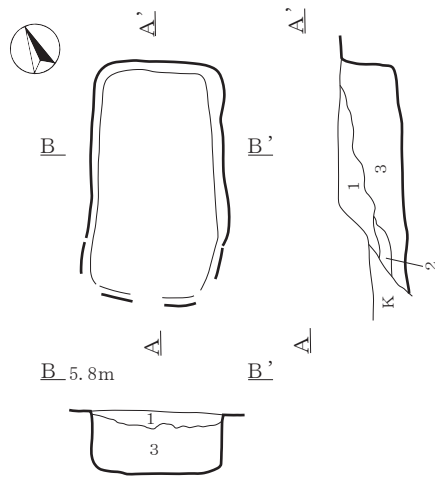
調査区の南に位置し、第1号竖穴建物跡を切り、第5号土坑と攪乱に切られている。平面形は長方形と推定され、規模は長軸2.3m、短軸1.2m、確認面からの深さ65cmである。主軸方向はN-76°-Wを示す。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。覆土は7層に分層したが、黒褐色土を主体とする人為的埋戻しである。遺物は土師器坏・甕、須恵器坏・高台付坏・甕が出土し、いずれも細片で流れ込みと推測される。

第4号土坑(第11図, 図版5)

調査区の南に位置し、大半を攪乱に切られている。平面形は長方形と推定され、規模は短軸1.1m、確認面からの深さ25cmである。主軸方向は計測できないが、長軸方向が南北方向と推測される。覆土は2層に分層したが、黒褐色土を主体とする、人為的埋戻しと考えられる。遺物は土師器甕・甑が出土し、いずれも細片で流れ込みと推測される。

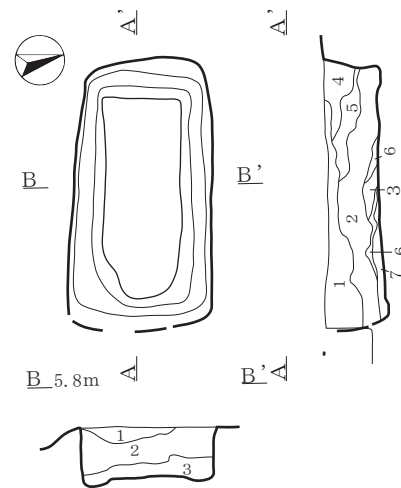
第5号土坑(第11図, 図版5)

調査区の南に位置し、第1号竖穴建物跡と第3号土坑を切り、攪乱に切られている。平面形は長方形と推定され、長軸1.9m、短軸1.1m、確認面からの深さ45cmである。主軸方



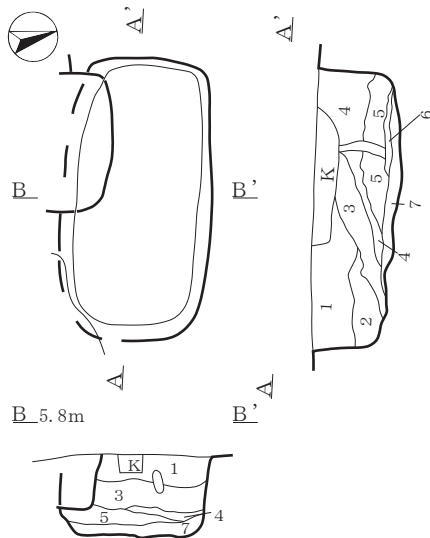
SK01

1. 黒色土 10YR2/1 縮まり弱い, 粘性無し。1mmローム粒 10%, 3~5mmローム塊, 焼土粒, 炭化粒 3%含む。
2. 黒色土 7.5YR2/1 縮まり強い, 粘性無し。1mmローム粒 10%, 4~5mmローム塊, 焼土塊含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 縮まり強い, 粘性無し。1~2mmローム粒 30%, 5~8mmローム塊, 焼土塊, 炭化粒 3%, 4cmローム塊含む。



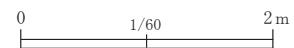
SK02

1. 黒褐色土 10YR2/3 縮まり普通, 粘性無し。1~2mmローム粒 30%, 5~10mmローム塊 10%, 10mm黒色土塊含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 縮まり普通, 粘性無し。1~2mmローム粒 20%, 15~35mmローム塊 30%, 10~20mm黒色土塊, 褐色土塊含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 縮まり普通, 粘性無し。1~2mmローム粒 20%, 5~10mmローム塊 10%, 黒色土塊含む。
4. 黒褐色土 10YR2/3 縮まり普通, 粘性無し。10mmローム塊 30%, 黒褐色土塊含む。
5. 黒色土 10YR2/1 縮まり普通, 粘性無し。1~2mmローム粒 20%, 10~15mmローム塊 10%, 焼土粒含む。
6. 黒色土 10YR2/1 縮まり普通, やや粘性。
7. 黒褐色土 7.5YR3/2 縮まり普通, 粘性無し。2~3mmローム粒 30%, 10~15mmローム塊 10%含む。

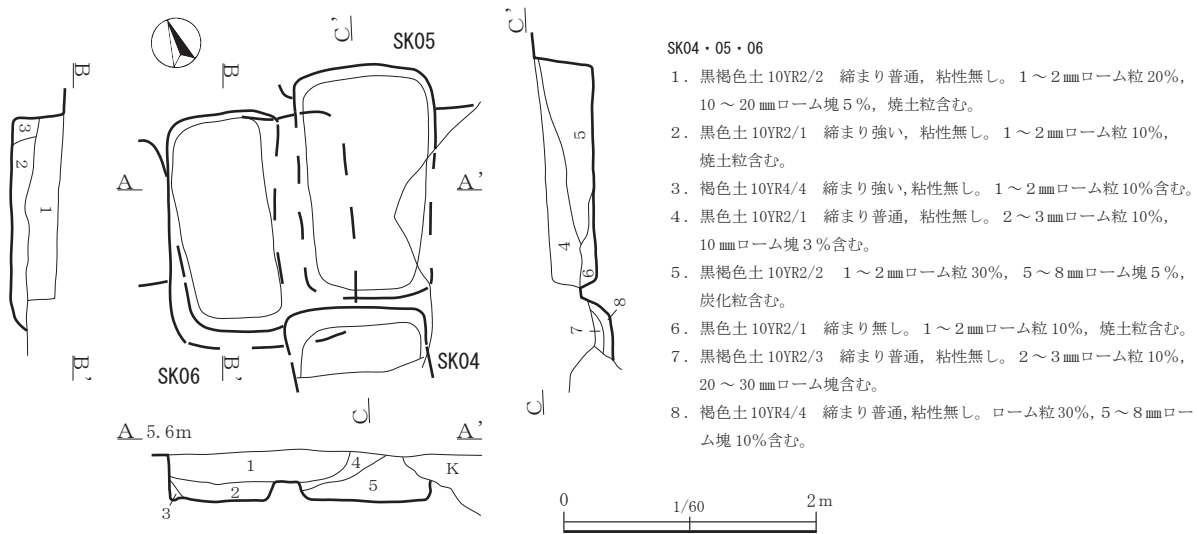


SK03

1. 黒色土 10YR2/1 縮まり弱い, 粘性無し。1~2mmローム粒 20%, 10~15mmローム塊 5%, 焼土粒含む。
2. 黒色土 10YR2/1 縮まり弱い, 粘性無し。1~2mmローム粒 5%, 10mmローム塊, 炭化粒含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 縮まり普通, 粘性無し。1~2mmローム粒 50%, 5~10mmローム塊 20%, 黒色土塊含む。
4. 黒褐色土 10YR2/3 縮まり普通, 粘性無し。1~2mmローム粒 5%, 10~30mmローム塊 10%, 黒色土塊含む。
5. 黒褐色土 10YR2/3 縮まり普通, 粘性無し。2~3mmローム粒 5%, 20~30mmローム塊 10%, 黒色土塊含む。
6. 褐色土 10YR3/4 やや縮まる, やや粘性。
7. 黒色土 10YR2/1 縮まり普通, やや粘性。10~20mmローム塊 10%含む。



第10図 土坑(1)



第 11 図 土坑 (2)

向は $N-18^{\circ}-E$ を示す。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は第 1 号竪穴建物跡の床面と同じである。覆土は 3 層に分層したが、黒褐色土を主体とする、人為的埋戻しと考えられる。遺物は土師器坏・甕, 須恵器坏・高台付坏が出土し、いずれも細片で流れ込みと推測される。

第 6 号土坑 (第 11 図, 図版 5)

調査区の南に位置し、第 1 号竪穴建物跡を切っている。平面形は長方形と推定され、長軸 1.7m, 短軸 0.8m, 確認面からの深さ 40cm である。主軸方向は $N-20^{\circ}-E$ を示す。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は第 1 号竪穴建物跡の床面と同じである。覆土は 2 層に分層したが、黒色土を主体とする、人為的埋戻しと考えられる。遺物は土師器坏・甕, 須恵器蓋・高台付坏・壺・甕が出土し、いずれも細片で流れ込みと推測される。

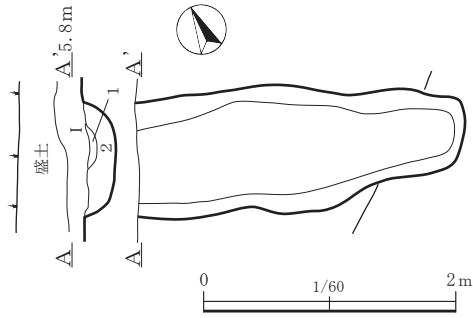
第 7 号土坑 (第 11 図)

調査区の南に位置し、第 5・6 号土坑の土層断面の観察からこれらを切る掘り込みが認められ第 7 号土坑とした。そのため、平面形は未確認で、規模は推定長軸 1.9m, 短軸 1.5m, 確認面からの深さ 25cm である。覆土は黒褐色土を主体とする、人為的埋戻しと考えられる。

3 溝

第 1 号溝 (第 12 図, 図版 5)

調査区の西に位置し東西方向に通る、調査区外に延びている。第 1 号竪穴建物跡を切っている。規模は全長 2.6m, 上幅 1m, 深さ 20cm を測る。主軸方向は $N-72^{\circ}-W$ を示す。断面播鉢状を呈する。覆土は黒褐色土を呈し、やや縮まり、灰褐色土が混じっている。遺物は陶磁器の細片が出土した。



SD01

1. 黒褐色土 10YR3/2 やや締まる。2～3mm灰褐色土粒 30%含む。
2. 黒褐色土 10YR3/2 締まり普通。1～2mm灰褐色土粒 10%含む。

第12図 第1号溝

第4表 遺物集計表

出土地点	第1号竖穴建物跡		第1号土坑		第2号土坑		第3号土坑		第4号土坑		第4・5土坑		第5号土坑		第6号土坑		第1号溝		遺構外		総計		
	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	
土師器	坏	33	283	4	11			5	81			1	6	1	6	1	4			2	13	47	404
	高台付坏			1	3															1	3	2	6
	高坏	1	8																			1	8
	壺・甕	242	8,112	30	197	26	172	38	294	3	32	14	93	25	210	25	215	6	59	20	309	429	9,693
	甌									3	24			3	63								6
須恵器	蓋	1	7												1	6						2	13
	坏	1	9	6	35	5	37	6	74			1	2	5	46					1	6	25	209
	高台付坏			2	12			2	25					2	50	1	46					7	133
	壺					1	5								3	5	2	16	2	16	2	8	42
	甕			1	6	1	5	3	31						3	40				1	29	9	111
提瓶	1	448																			1	448	
土製品	土玉	5	11.4																			5	11.4
	支脚	1	35																			1	35
石製品	編み物石	2	641																			2	641
土師質土器	小皿																			1	4	1	4
	内耳土鍋																4	27				4	27
陶器													1	2			1	2				2	4
磁器																	1	3				1	3
鉄製品																1	14					1	14
総計	287	9,554.4	44	264	33	219	54	505	6	56	16	101	37	377	35	330	14	107	28	380	554	11,893.4	

第4章 総括

今次調査の結果、古墳時代後期（7世紀前葉）と考えられる竪穴建物跡1軒と、中世以降と考えられる土坑7基、溝1条を確認した。

竪穴建物跡は一辺5.8m、面積33.6㎡で、主軸方向はN-40°-Wである。時期は今回出土した遺物は図示し得た坏類は小片のみであり時期を決めるのは心もとないものであった。そこで、須恵器提瓶をもって時期を想定した。出土した提瓶は全体的に小ぶり、把手部分が瘤状になっていることなどからTK209型式並行期と考えられ、本遺構の時期を7世紀前葉と考えた。近隣の同時期の竪穴建物跡が検出されている遺跡を概観すると東前原遺跡、梶内遺跡、武田遺跡群（ひたちなか市）などがあげられる。梶内遺跡では第79号住居跡の平面積が28㎡、主軸方向はN-30°~45°-Wと規模・主軸方向が当遺跡の第1号竪穴建物跡と近似値を示している。梶内遺跡では同時期の竪穴建物跡が5軒検出されており、そのうちの、第79号住居跡と第93号住居跡、第27号住居跡と第104号住居跡が近接していることから、2軒1単位で配置されていると考えられている。今次調査では調査面積が狭小なため1軒のみの検出にとどまったが、カマドが作り替えられていることを考えるならば、2軒1単位として本竪穴建物跡もその範疇として考えうるのではないかと考えられる。また、武田西塙遺跡第51号竪穴建物跡は7.2×7.1mの方形のプランで、主軸方向はN-55°-Wである。平面規模だけ見れば本遺跡や梶内遺跡のものに比べて大きい、主軸方向はほぼ同じ方向を示している。また、これらの遺跡は古墳時代から奈良・平安時代にかけて継続的に集落が営まれていることが確認されている。本遺跡も今次調査の面積は狭小であったが、遺跡の想定範囲は約5000㎡を測り、今後の調査によっては古墳時代から奈良・平安時代にかけての集落が確認される可能性がある。

遺物は土師器坏、甕、須恵器提瓶、土玉などが出土した。中でも特筆すべきは須恵器提瓶の出土であろう。水戸市内ではこれまで、権現山横穴墓群、下遠田遺跡第2号竪穴建物跡出土のものが認められるだけであり、本遺跡の出土例で4例目となる。県内の出土例（古墳を除く）は島名熊の山遺跡、殿島遺跡、柴崎遺跡、辰海道遺跡等があり、遺跡の数は少ない。これらの遺跡は古墳時代から奈良・平安時代にかけての集落であるが、須恵器提瓶が出土する竪穴建物跡は1軒あるいは数軒に留まっている。また、出土時期も6世紀前葉から7世紀中葉と時間幅があるが、その最初の段階では県外産のものが持ち込まれたようであり、7世紀以降在地産のものにシフトしていったと考えられる。その出土状況では下遠田遺跡の様に貯蔵穴内から出土したもののほかに、島名熊の山遺跡ではある程度埋まってから置かれた状態で出土している。また、殿島遺跡の報告書では廃絶時に祭祀がおこなわれた可能性があると言及されている。竪穴建物跡の廃絶に当たっては遺物の出土状況等の調査事例から祭祀的な行為が行われていたと推測される。本遺跡の須恵器提瓶は、下遠田遺跡や島名熊の山遺跡の様に完形品として出土したわけではないが、覆土中に焼土等の痕跡が認められたことから、提瓶が祭祀行為の末に破片となったとも推考される。

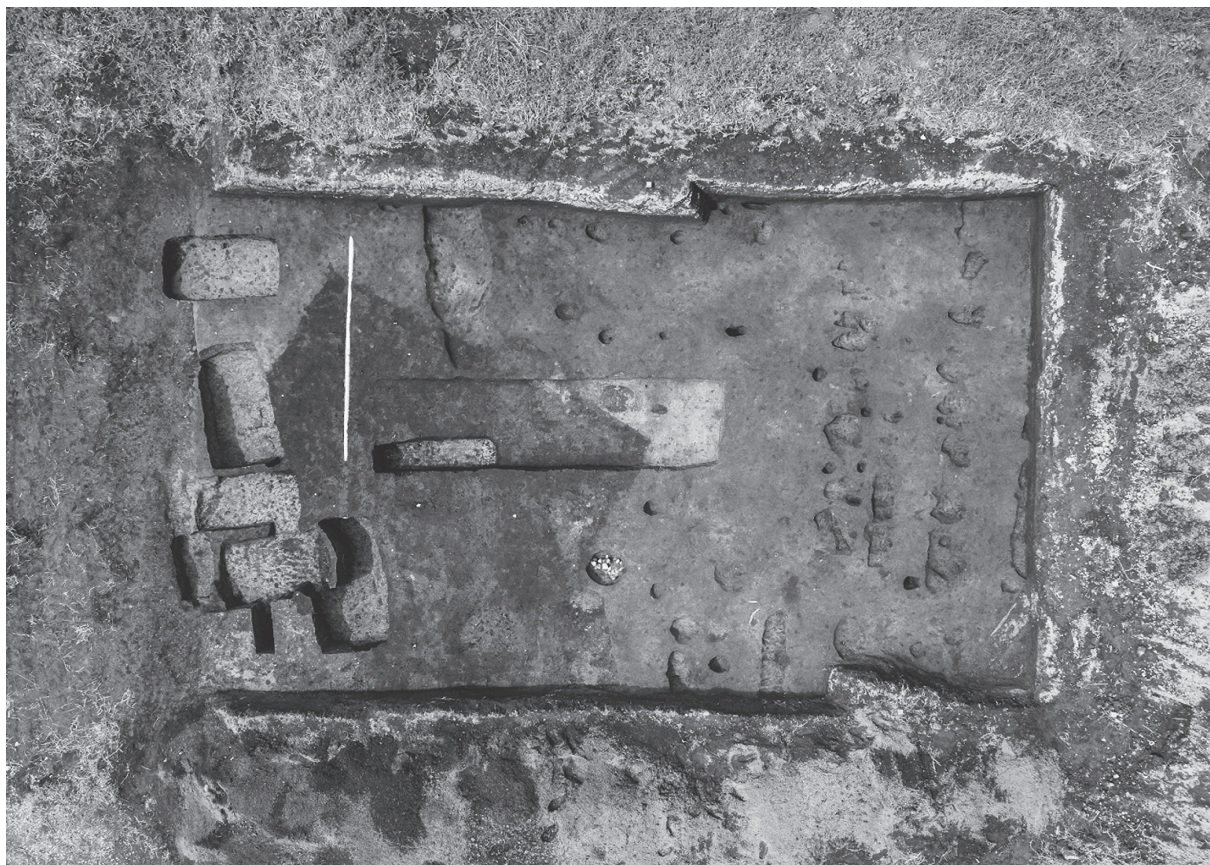
土坑はすべて長方形で、規模は長軸1.7~2.3m、短軸0.8~1.2mの範囲に入る。主軸方向は南北方向（N-18°-E~N-24°-E）の第1・5・6号土坑、第4号土坑は攪乱に切られているが短軸が東西にあるため、主軸は南北方向と考えられる。東西方向（N-

76・77-W) に主軸を持つものは第2・3号土坑である。第3号土坑を第5号土坑が切っていることから、主軸が東西方向のものから南北方向のものへ作り替えられたものと考えられる。土坑は規模・方向が近似していることから同じ目的で掘られたものと推測されるが、その用途については不明である。

参考文献（五十音順）

- 稲田健一 2010 「古墳時代の武田遺跡群」『武田遺跡群 総括・補遺編』ひたちなか市教育委員会・財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社
- 海老澤稔・見越広幸 2019 『島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XXV』茨城県・公益財団法人茨城県教育財団
- 近江屋成陽 2017 『殿島遺跡 主要地方道玉里水戸線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県水戸土木事務所・公益財団法人茨城県教育財団
- 大森信英 1966 「茨城県水戸市下国井町権現山横穴」『日本考古学年報』14 日本考古学協会
- 樫村宣行 1995 『一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書II 梶内遺跡』建設省・財団法人茨城県教育財団
- 越田慎太郎 2004 『辰海道遺跡2 北関東自動車道（協和～友部）建設工事地内埋蔵文化財調査報告書II』日本道路公団東京建設局・財団法人茨城県教育財団
- 齋藤貴史・本橋弘巳 2010 『田崎遺跡 一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書4』国土交通省・財団法人茨城県教育財団
- 田中幸夫他 2006 『島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XII』茨城県・財団法人茨城県教育財団
- 田村雅樹 2015 『下遠田遺跡 一般県道友部内原線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県水戸土木事務所・公益財団法人茨城県教育財団
- 中根節男他 1987 『霞ヶ浦用水建設事業地内埋蔵文化財調査報告書 五斗落遺跡 大儘遺跡 弁ノ内遺跡 原ノ内遺跡 ゴリン山遺跡 真木ノ内遺跡』財団法人茨城県教育財団
- 土生朗治 1992 『研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（III）柴崎遺跡III区』住宅・都市整備公団つくば開発局・財団法人茨城県教育財団
- 平松孝志 2000 『北関東自動車道（友部～水戸）建設工事地内埋蔵文化財調査報告書IV 古峯A遺跡 古峯B遺跡 高土台塚群』日本道路公団東京建設局・財団法人茨城県教育財団
- 水戸市役所 1963 『水戸市史 上巻』
- 綿引英樹・松本直人 2006 『大戸下郷遺跡2 主要地方道内原塩崎線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書IV』茨城県水戸土木事務所・公益財団法人茨城県教育財団

写真図版



A. 中世土坑・近世耕作痕掘削状況全景（垂直）



B. 古墳時代竪穴建物跡掘削状況全景（垂直）

図版2



A. 古墳時代竪穴建物跡掘削状況全景（北東から）



B. 遺構検出状況（北東から）



C. 中世土坑・近世耕作痕掘削状況全景（北東から）



D. 古墳時代竪穴建物跡掘削状況全景（北東から）



E. 基本層序（南東から）



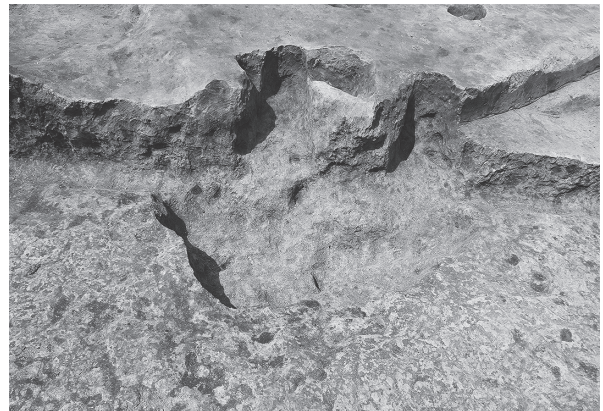
A. SI01 完掘状況（北西から）



B. SI01 土層断面（南から）



C. SI01 新カマド（南東から）



D. SI01 カマド掘方（南東から）



E. SI01 新カマド土層断面（東から）



F. SI01 旧カマド土層断面（南から）



G. SI01 土師器甕出土状況（南から）



H. SI01 土師器甕出土状況（南から）

図版 4



A. S101 須恵器提瓶出土状況（西から）



B. S101 須恵器提瓶出土状況（西から）



C. S101 土玉出土状況（北から）



D. 土坑群完掘状況（西から）



E. 土坑群完掘状況（東から）



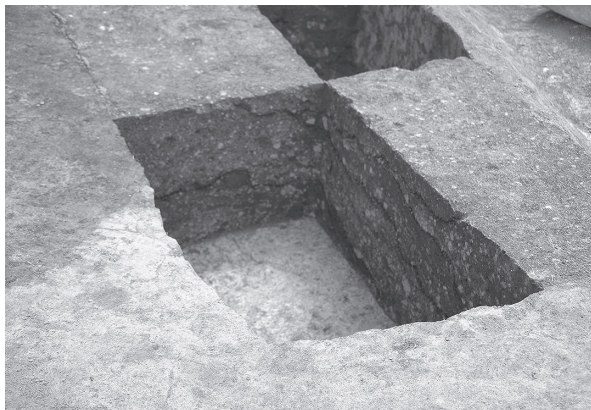
F. SK01 完掘状況（南西から）



G. SK01 土層断面（南から）



H. SK02 完掘状況（西から）



A. SK02 土層断面 (西から)



B. SK03 完掘状況 (東から)



C. SK03 土層断面 (南から)



D. SK04 完掘状況 (南西から)



E. SK05 完掘状況 (北東から)



F. SK06 完掘状況 (北東から)

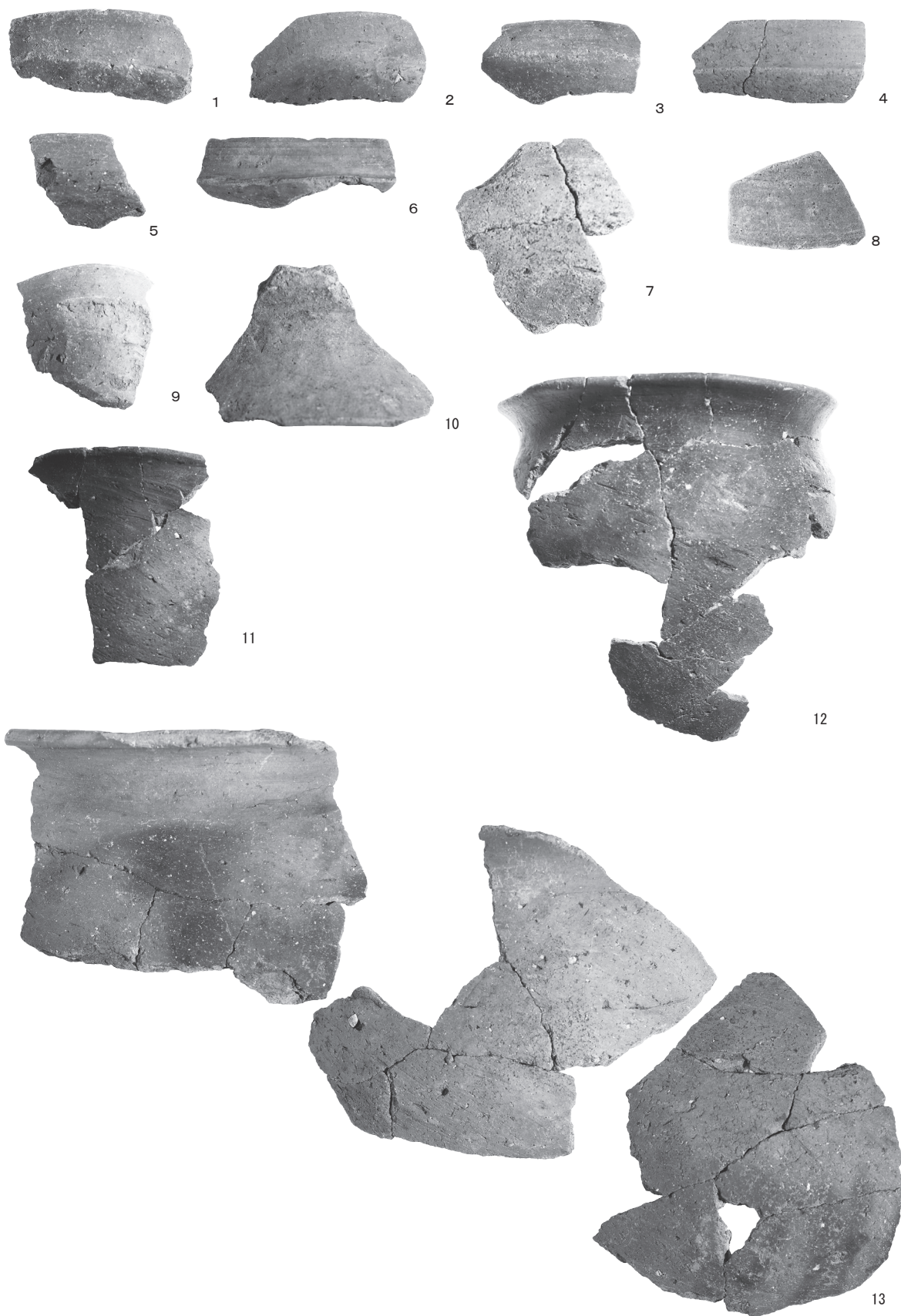


G. SD01 完掘状況 (南東から)



H. SD01 土層断面 (南東から)

图版 6



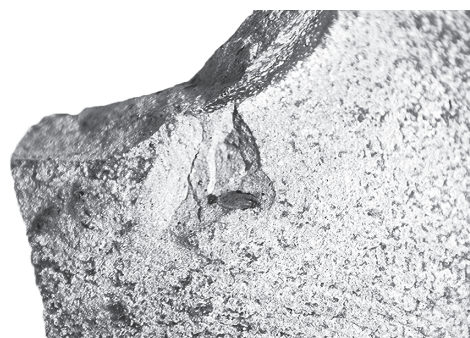
第 1 号竖穴建物迹出土遺物(1)



14



15



16 羽庄痕(原寸)



17



18



19



20



21



22



23

報告書抄録

ふりがな	うへのしたいせき (だいよんちてん だいにじ)							
書名	上の下遺跡 (第4地点 第2次)							
副書名	建売住宅建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告 第125集							
編集者名	三輪 孝幸							
著者名	三輪 孝幸 新垣 清貴							
編集機関	株式会社日本窯業史研究所 栃木県那須郡那珂川町小砂 3112 TEL0287-93-0711							
発行機関	水戸市教育委員会 茨城県水戸市中央1-4-1 TEL029-224-1111							
発行年月日	令和4年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ′	° / ′			
うへのしたいせき 上の下遺跡	みと しょうまえ 水戸市東前 いっちょうめ ぼん 一丁目58番 1	8201	299	36° 20′ 29″	140° 32′ 5″	2021.09.01 ~ 2021.09.17	112 m ²	建売住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
上の下遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴建物跡	1 軒	土師器坏・高坏・甕, 須恵器蓋・坏・提瓶		7世紀前葉と推定 される竪穴建物跡 から須恵器提瓶が 出土した。	
		中世以降	土坑 溝	6 基 1 条				

水戸市埋蔵文化財調査報告 第125集

上の下遺跡 (第4地点 第2次)

—建売住宅建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

印刷 令和3年12月

発行 令和4年3月

編集 (株)日本窯業史研究所

発行 水戸市教育委員会

印刷 株式会社松井ピ・テ・オ・印刷